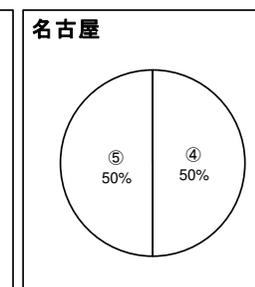
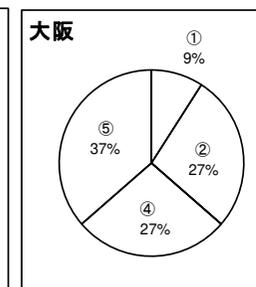
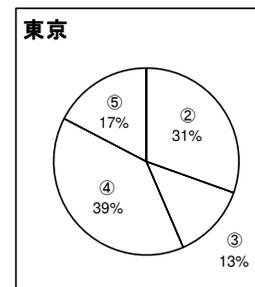


Q1.「オルタナティブ」については、資金調達手段の多様化や資金調達の構造変化、昨今の市場環境にともない、ますます重要な投資対象になると思われますが、どのように管理するのが適切とお考えでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけ、お選びください。

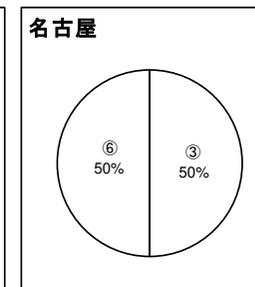
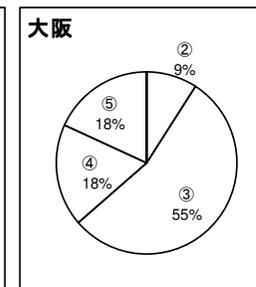
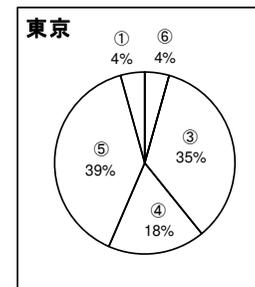
	東京	大阪	名古屋	合計
① オルタナティブという曖昧な分類は避け、伝統的資産の枠組みで管理すべき。	0名	1名	0名	1
② 伝統的資産では管理しきれないので、「オルタナティブ」を一つの資産として管理することは必要。	7名	3名	0名	10
③ 「オルタナティブ」の組み入れ比率が一定程度以下であれば「オルタナティブ」として分離管理する方がよい。	3名	0名	0名	3
④ 「オルタナティブ」という分類には意味が無いとは思いますが、実務上の手間や都合を考慮すると、この分野は必要。	9名	3名	1名	13
⑤ 今後益々種類は増え、重要性も増すので、「オルタナティブ」という分類は廃止すべき。	4名	4名	1名	9
⑥ その他	0名	0名	0名	0
合計	23	11	2	36



【③上限比率】  
東京 5% / 1名 / 10% : 1名 / 25% : 1名

Q2. 投資対象としてプライベート物を考える場合、市場（パブリック）物との比較において、どのようにお考えでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけ、お選びください。

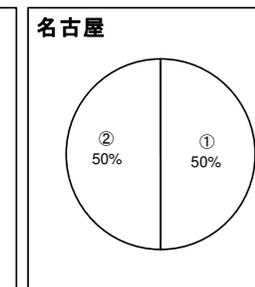
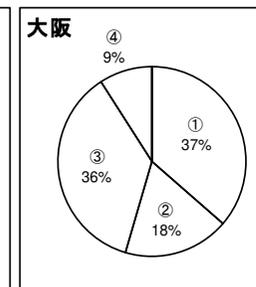
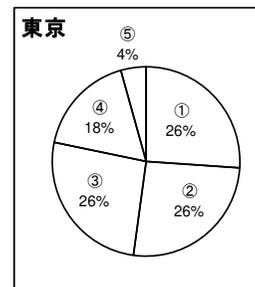
	東京	大阪	名古屋	合計
① 詳細を理解するのが難しく、かつ流動性の制約も大きいので、消極的にならざるをえない。	1名	0名	0名	1
② プライベート物は確かに魅力的だが、社内の規則や慣習の問題で、黒字化まで数年間も持ち続けることはできない。	0名	1名	0名	1
③ 金融危機の際に、プライベート物は影響が少ないので、一定程度のプライベート物への投資は必要。	8名	6名	1名	15
④ 過度な時価評価の弊害を避けられるので、積極的に投資する。	4名	2名	0名	6
⑤ 相対の交渉を通じた価値の創出が可能なので、投資対象として魅力がある。	9名	2名	0名	11
⑥ その他	1名	0名	1名	2
⑦ 無回答	0名	0名	0名	0
合計	23	11	2	36



【その他回答】東京・予定利率確保のため一定程度必要。

Q3.ベンチャーキャピタルは、全くの新しいスタートアップの企業や創業間もない企業に投資しますが、そこでは、合理的な事業キャッシュフローの推計は困難であるはずですが、さて、ベンチャーキャピタルは、責任ある投資家にとって、適格な投資対象であり得るのでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけ、お選びください。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 事業キャッシュフローの推計は難しくても、事業モデルの妥当性や合理性は評価し得るのだから、適格な投資である。	6名	4名	1名	11
② 案件ごとに投資の適格性を議論することはできない。複数投資することで、統計的な制御が成り立つ限りでのみ、適格な投資である。	6名	2名	1名	9
③ 様々な経営支援活動（ハンズオン）によって、積極的にリスク管理できるという条件の下でのみ、適格な投資である。	6名	4名	0名	10
④ 創業直後の投資は、適格性を欠く。事業キャッシュフローが読める段階に達した企業に、投資は限定すべきである。	4名	1名	0名	5
⑤ その他	1名	0名	0名	1
⑥ 無回答	0名	0名	0名	0
合計	23	11	2	36



【その他回答】東京・教育機関の余剰資金の運用対象として適格と思えるものであれば検討の余地はあるかも